

2017年 富田林市立図書館から
3年生*4年生のみなさんへ

『ネコの家教師』

南部 和也/さく
さとう あや/え
福音館書店



ベスは市場生まれの白ネコでした。忙しい市場では人々が優しさを無くしてしまっていました。他の世界があるのでは？と想像していると、買物にきた馬車にけりあげられ、そのまま宮廷にたどり着きます。敷地内の森でベスはやさしいトリア姫と出会います。トリア姫と一緒にいたいベスは名案を思いつきました。

『わくわく発見！
日本の郷土料理』

竹永 絵里/画
河出書房新社



日本には各地の文化やくらしがたからうまれた、とくちようのあるりょうりがあります。たとえば大阪府は、ふぐりょうりの“てっちり”。奈良県は“柿の葉寿司”。この本では、日本中の114しゆるいものりょうりやおやつがしょうかいされています。はじめて知るりょうりも、いろいろどりのイラストをみれば食べてみたくもなるかもね！

夏のおてがみ

さあ！夏休み。おまつりや花火大会、楽しいことがいっぱい。宿題は多いかな？ほっと息抜きをしに図書館にもぜひ来てみてね。



青山 邦彦/作
北川 央
(大阪城天守閣館長)
/監修
講談社



ダイスケとケンタとサオリはおとのさまに、ひでよしがつくるしろのひみつをさぐれといわれます。しろがたつばしよにひとがあつまり、きがきられ、ほりがほられていきます。さんにんも、きりかぶをほったり、いしがきのいしをはこんだり、てんしゆのほねぐみをつくったりします。さんにんがどこではたっているか、さがしてみてね。

『アマミホシゾラフグ』

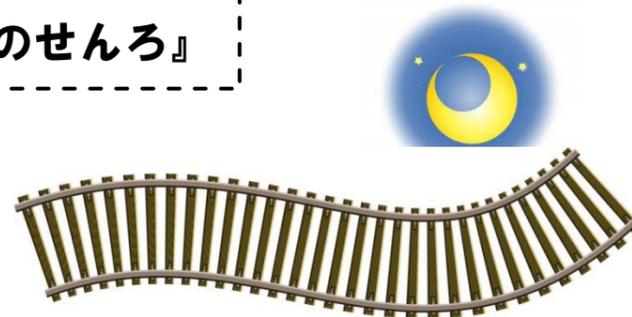
江口 絵理/文 大方 洋二/写真
友永 たろ/画 ほるぷ出版



九州と沖縄のあいだに、奄美大島という島があります。この島のそばの海の底には、大きくてきれいな丸いもようがあります。このもようには、貝がらやサンゴでかざり付けもしてあります。これはアマミホシゾラフグという魚のオスが作った物です。このきれいなもようでもメスの気をひいて、卵を産んでもらうのです。

『まよなかのせんろ』

鎌田 歩/著
アリス館



でんしゃは、まいにちたくさんのおもたいでんしゃをささえるせんろは、すこしずつゆがんでいき、のりごちがわるくなります。それをなおすのが「マルチプルタイタンパー」。まよなかに、たくさんのおもたいでんしゃをしごとをしています。そのさぎようのようすがくわしくしょうかいされています。

『ブーツをはいたキティのおはなし』

ピアトリクス・ポター/さく
クエンティン・ブレイク/え
松岡ハリス 佑子/やく
静山社



ピーターラビットの作者が1914年に書いた物語が、ブレイクの楽しいさし絵とともに、100年の時を超えて出版されました。黒猫のキティは、飼い主にはまじめでお行儀がよいと思われていたのですが、夜になるとこっそり家をぬけ出して大冒険。ある晩とうとう、ずるがしこいキツネの罠につかまってしまいます。

『いたずらおばけ』



イギリス民話 ^{みんな} 瀬田 貞二 / 再話 和田 義三 / 画 福音館書店

むかし、あるところにひとりぐらしのおばあさんがいました。おばあさんはびんぼうでしたが、村のひとにたすけられ、げんきにあかるくせいかつをしていました。あるひ、おばあさんはみちにおちていたつぼに、金がどっさりつまっているのをみつけます。さて、おばあさんはおかねもちになってしあわせになるのでしょうか。



『カルペパー一家のおはなし』

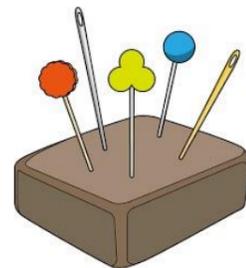
マリオン・アピントン / 文 ^{いっか} ルイス・スロボドキン / 絵
清水 眞砂子 / 訳 瑞雲舎



デビーは、お父さんが作ってくれた素敵^{すてき}な家と紙人形を、カルペパー一家と名付けて子ども部屋に置きました。かっこいいお父さん、優しいお母さん、子ども8人のカルペパー一家の楽しい毎日が始まります。子ども部屋の中をたんけんし、出会ったねずみとすぐに仲良しになります。やがて、友だちをさがして家の外にも出かけます。

『くらのそとのお針箱』お江戸あやかし物語

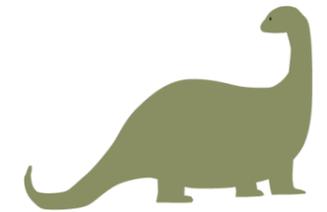
水沢 いおり / 作
石橋 富士子 / 絵 偕成社



つくも神のこまち^{たち}達は、江戸の町でつくろいもの屋をしています。店にはいろいろな人がやってきます。ある日、ひとりの女の子に出会います。この女の子は、蔵^{くら}にあった古いさいほう箱を探していました。このお話のほかにも3つのお話がのっています。江戸時代の暮らし^{くらし}がわかる不思議な縁^{えにし}の物語です。シリーズの3番目です。

『スミソニアンに恐竜^{きょうりゅう}がやってきた!』

ジェシー・ハートランド / さく
志多田 静 / やく 六耀社



スミソニアン博物館に巨大な恐竜^{きょうりゅう}のディプロドクス^{てんじ}が展示されるまでのおはなし。1億4千5百万年たって発見されたディプロドクスは、鉛筆^{えんぴつ}のような形の歯をもつ草食動物^{そうしょくどうぶつ}です。恐竜ハンターに発見され、古生物学者^{こせいぶつがくしゃ}が骨^{ほね}を調べて、エクスカベーターと呼ばれる作業員^{さぎょういん}が骨のまわりから石を取りのぞくと、最後は清掃員^{せいそういん}が恐竜を洗ってお披露目^{ひろめ}です。

『こども菜根譚』

齋藤 孝 / 監修
日本図書センター

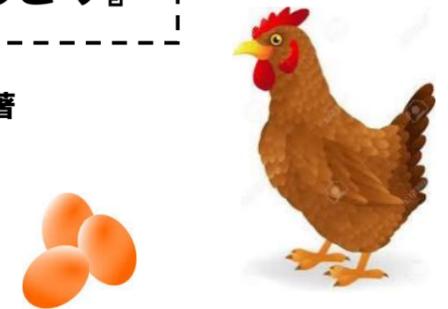


むかしの中国で書かれた本です。悲しい思い^{くや}や悔しい気持ち、まわりの人とのつきあい方など、いろいろな悩みを乗り越える24のことが書かれています。どのページからでも、その日に気になるところから読んでみませんか。説明文と一緒に声に出して読んでみると、むずかしく感じたことがあなたを元気にしてくれますよ。



『ソーニヤのめんどり』

フィービー・ウォール / 著
なががわ ちひろ / 訳
くもん出版



のうじょうにくらすソーニヤは、三ばのひよこのおかあさんをしています。えさをやって、こやのそうじをして、とてもかわいがりました。やがて、ひよこたちはりっぱなめんどりにそだちましたが、あるばん、たいへんなできごとがおこります。かなしくてなってしまうソーニヤに、おとうさんはあることをおしえてくれたのでした。